

星座盤の使い方

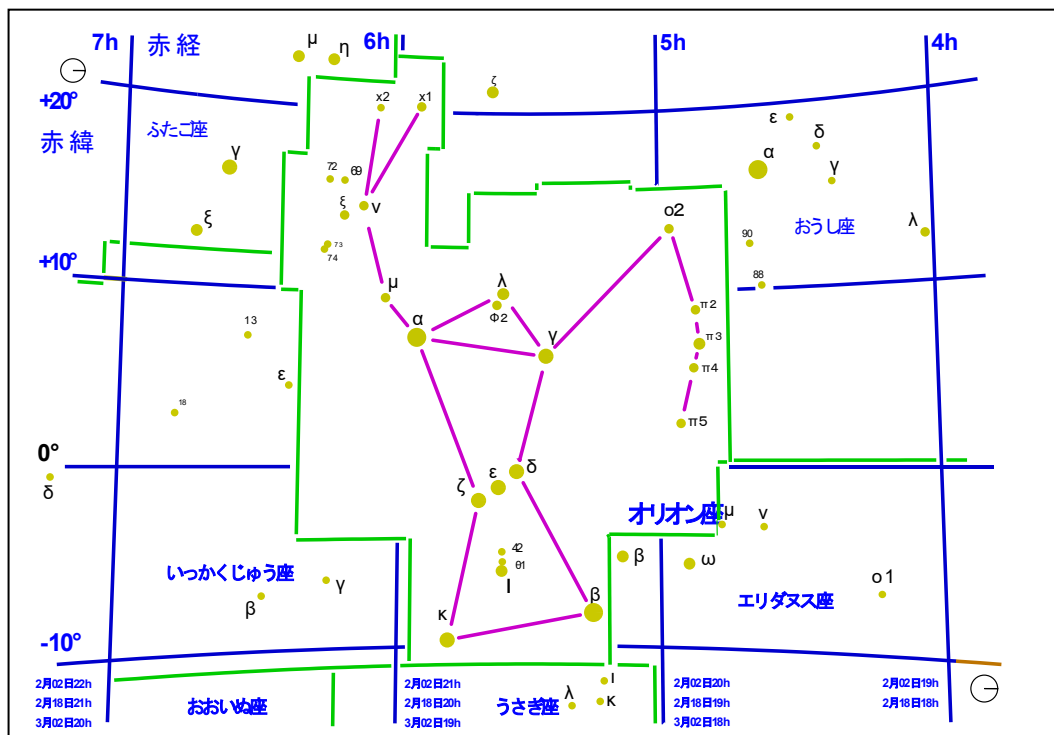
1. 光の照射

星座盤には蓄光発光塗料が塗られていますので使用する前に蛍光灯やブラックライト、あるいは懐中電灯で照らしてください。長く照らせば照らすほど良く、暗闇中での発光時間が長くなります。

2. 星座透かし見盤 (A) を使う

星座透かし見盤 (A) から星座絵あてはめ盤 (B) を左へ滑らせて、マグネットの固定を外します。そのまま B を左回りに回転させて A の下側へ持っていきます。そして A の左右の辺を持ちます。眼から約 30 cm 離れた状態で効き目だけで夜空の星と A に描かれた星の像を合わせます。合わないときは右や左に回転させたり上や下へ動かして合わせます。うまく合ったらその位置を覚えておきます (C)。

一例として、下図はオリオン座の星座透かし見盤 (A) の元図 (縮小版) です。



黄色の (●) は星を表しています。大きさは 1 等星を最大 (約 5 mm 径) として 5 等星 (約 1 mm 径) まであります。上図ではわかりやすく各星にギリシャ文字 (一部には数値) が添え字として付けられていますが、実際の星座盤には付いていません。

赤色の線 (—) は星座線です。

緑色の線 (—) は星座境界線です。このオリオン座の周りには右上から左回りに、“おうし座”、“ふうたご座”、“いっかくじゅう座”、“おおいぬ座”“うさぎ座”、“エリダヌス座”があります。これらの各星座の主な星も描かれています。

青色の横線 (—) は赤緯線です。左側にそれぞれの赤緯値が付けられています。下側から

-10°、0°、+10°、+20°です。0°の線は天の赤道に相当します。

したがって日本での標準緯度を北緯35°とすれば、この線は真南では高度55°なので中天より少し上方にあります。これから類推して、オリオン座は南中時には中天より少し上方に位置することになります。東から上ってくるときは真東より少し北に寄った位置から、西に沈むときは真西より少し北に寄った位置になります。ほかの星座の星座盤を使う時は上記のことを応用してください。

青色の縦線(—)は赤経線です。上側にそれぞれの赤経値が付けられています。右側から4h、5h、6h、7hです。またこれらの赤経線が南中(正中)するおおよその月、日、時刻が下側に記されています。赤経線の1hは1時間に相当し、角度は15°です。24時間経過すると360°回ってほぼ同じ位置にきます。“ほぼ”というのは1年間に360°まわりますので1日に1°ずつ早く回ってきます。半月で約15°すなわち1h分早く回ってくるようになります。このことを応用するといつ頃にこの星座は見ることができるのか、できないのかがわかります。

3. 星座絵あてはめ盤(B)を使う

(C)の状態から、Bを下から右回しして元の位置へ動かし、マグネットで固定します。そのそのまま先ほどの位置へ掲げると星座盤の星座及び星座絵が実際の星空の星座にあてはめられます。

一例として、下図はオリオン座の星座絵あてはめ盤(B)の元図(縮小版)です。



以上